

令和4年 10月28日(金)

あさひの日だまり

NO.25

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～マラソン大会へ向けて～

走ることが苦手な人もいますよね

「マラソン大会、楽しみ？」と昇降口をくぐる児童にたずねてみました。

「普通だよ」「普通ってどういうこと？好きでも嫌いでもないってこと？」「う～ん そうだな～」

「本当やなんだよね。音楽会はいいけど、マラソン大会はほんと嫌」「そうか、走るの苦手なんだね。頑張れよ！」

「走るの大好き」(次の質問をしようとしているうちに、そう言い残して全速力でグラウンドへかけていきました)

「一番最後にならないようにはしたいな～」

一人ひとり色々な思いを抱えながらグラウンドを走っているのですね。

水泳もマラソンも歌も楽器の演奏もどんなことにも、みんな一人ひとり得意不得意があります。どの行事も大好きって子供も中に入ると思いますが「こんな行事無くなればいいのに」と心から願っている人だっていると思います。私にも、苦手なことがたくさんありました。楽譜を読むこと。クロールの息継ぎ。九九。裁縫。……。苦手なことに向かおうとしている子どもの気持ちはわかるように思います。

学校の授業も行事も、全員が一律に参加します。子どもの希望はとってくれません。ある意味、不得意な子どもたちに苦しい思いを強いているという一面もあります。体育係の先生に「マラソン大会ってどうしてあるんだろうね？」と尋ねてみました。先生がこんなことを答えてくれました。



「なんでマラソンなんてするのだろう」「どうして走るかわからないけど、みんながやるからなんとなく走ってる」って思いながら走っている人もいるだろうと思います。毎年あることだから何も考えずに参加しているって人も多いと思うんです。

この前4年生に授業でこんなことを話しました。「人の体は自分が食べたもので作られていく。そして、運動は、自分で作った体をよりよく成長させるという意味がある」「運動することで筋肉が発達し、心臓が大きくなり、肺がたくさん酸素を吸収できるようになる。骨も走ること丈夫になるんです」「マラソンが苦手な人もいるでしょう。自分の体に良いことをしているという実感はないと思うけど、小学生の時期に、頑張って走ることは、将来の自分の生活を豊かにすることに必ずつながるのです。自分の明るい人生のために、今、ぜひ頑張ってください」と。

一人で走っていたら辛くて嫌になってしまうかもしれない。でも、マラソンはみんなで行くんです。友達が苦しい時は励ましたり、声を掛け合ったりしていいです。そうすることで友達との関係も深まっていくと思います。そういう意味でもみんなのよりよい成長につながる機会にもなるんです。どうかこの機会を大切にしてくださいと思います。

私も、「頑張れ！」という友達の声に後押しされて、みんなが笑顔でゴールして、「私、よく頑張った！」と自分で自分を褒めてあげられる。そんなマラソン大会になることを心から願っています。

～脱穀をしました～

千歯扱きを使って脱穀しました

昔の農具も利用して、5年生が脱穀をしました。今回も地域の皆様の手をお借りして、なかなかできない貴重な体験をさせてもらいました。種もみから、お餅まで、ずっと目の前で成長と変化を体験できるなんてすごいことを経験しています。地域の方に感謝です。



～ハッピー・ハロウィーン～

かがやき学級の子どもたちに招かれて、教室へ行ってみました。仮装した子どもたちは、笑顔いっぱい「トリックオアトリート」と英語で話しかけてくれました。朝、コンビニで用意した、ちっちゃなお菓子を「トリート」と言いながらプレゼントしました。



可愛く仮装してハロウィーン